

# The Expert



令和3年11月10日発行 ● No.145 ●

## ● 総合診療科 佐々木 陽典 講師 (平成18年・東邦大学卒)

### 病院総合診療医による新型コロナウイルス感染症と専門領域の谷間への対応

2006年に東邦大学医学部を卒業して大森病院で臨床研修の後、臓器の枠に囚われずに患者さんの役に立てる医者を目指し、聖地として憧れていた沖縄県（本島・石垣島）で5年半に渡って研鑽を積みました。専門医療機関であると同時に、多くの医療人が初めて患者さんに触れ合う教育機関でもある大学病院でこそ総合診療医の活躍が必要だと考え、2014年から当院総合診療・急病センターで臨床・教育・研究に励んでいます。

#### (1) 新型コロナウイルス感染症と総合診療

前回2018年に原稿を執筆させていただいて以降の最大の変化は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の襲来です。当院では総合診療・急病センターが呼吸器内科、救命救急センターとともにCOVID-19対応の中心的役割を担ってまいりました。総合診療医は「医師の海兵隊」「病院のインフラ」に例えられることがありますが、その例えが示すように、総合診療科はCOVID-19の診断・初期治療・病棟運営に関与し、COVID-19とそれ以外の疾患の狭間に身を置いてきました。COVID-19を意識しすぎるあまりに他の緊急疾患が見逃される状況を、私達はCOVID blindness (盲目)と呼んでおり、これをいかに予防するか、総合診療の重要な「診断エラー」研究として取り組んでいます。

#### (2) 病院総合診療医と診断のつかない愁訴への対応

高度に専門化された医療の恩恵は計り知れません。一方で、専門領域の谷間で苦しんでいる患者さんも多く、過度の専門化への反省から2018年には総合診療専門医が新設されました。しかし、病院を活躍の場とする総合診療医のキャリアは不透明でした。そこで、私自身も研修プログラムワーキング委員の一員として関わらせていただき、2021年度に病院総合診療専門医制度の設立に至りました。この制度では、病院管理を病院総合診療専門医に求められる特徴的な能力の一つに位置付けており、COVID-19対応での病院総合診療医の活躍も、その証左ではないかと感じております。

私自身も研鑽を続け、専門領域の谷間で苦しむ方々に寄り添える「やさしい医療」を実践し、後輩に病院総合診療の魅力を伝えてゆきたいと思っております。発熱、倦怠感、むくみ、腓返り、痛み、口渇といった原因不明の症状でお困りの際には、病名や診療科にこだわることなく、ぜひ総合診療科にご相談いただければ幸いです。

## ● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。  
診療日・診療時間をご案内いたします。

医療機関専用電話 **パートナー**  
**03-3762-6616 (直通)**

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)  
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)

## ● 診療日

佐々木 陽典 講師：初診 火曜日 午前  
再診 月曜日 午前  
木曜日 午前



東邦大学医療センター大森病院  
Toho University Omori Medical Center  
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1  
03-3762-4151 (代表)  
<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>  
発行元：地域医療支援センター

# The Expert



令和3年11月10日発行 ● No.145 ●

## ● 栄養治療センター嚥下障害対策チーム

関谷 秀樹 栄養治療センター副部長(嚥下チーム担当)(平成4年・東京医科歯科大学卒)

山崎 香代 摂食嚥下障害看護認定看護師(平成23年・日本赤十字広島看護大学認定看護師教育課程修了)

### 嚥下(えんげ)障害対策チームと摂食嚥下支援看護外来

～入院患者さんの誤嚥・窒息を予防し、シームレスな摂食嚥下支援を行っています～

私たち嚥下障害対策チーム(嚥下チーム)は、「入院患者さんの誤嚥・窒息を予防し、不必要な食止め(口から食べず点滴や経管などで栄養)を防止する」をスローガンに、2005年から活動しています。2010年に入院患者さんの栄養管理を支援するNST(栄養サポートチーム)と嚥下チームは、合併して、日本初の「栄養治療センター」となり、NST鷺澤尚宏教授が部長、わたくしが副部長を拝命しました。当院は、患者さんの適切な経口摂取を支援するべく、2020年に保険収載された「摂食嚥下支援加算」を当初より実施し、要件を満たす医師・歯科医師・認定看護師・薬剤師・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士と全職種で専任を置き、入院患者さんの摂食嚥下支援に努めています。このメンバー構成は、実に2005年の活動時からのものであり、16年前より時代を先取りしています。診療科も、消化器外科、脳神経内科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科(参加順)そして口腔外科と摂食嚥下障害に関わる全ての診療科が参加しています。

高齢化社会において、難易度の高い手術や治療の周術期に起こりうる誤嚥性肺炎や窒息を管理することは、容易ではありません。しかし、16年間で培った経験や先駆的システム(看護部の協力で、嚥下リンクナースによる嚥下評価、Myステーションにおける誤嚥窒息リスクスクリーニング)と、メンバーの一致団結したチーム医療で全国平均より圧倒的に低い術後肺炎発症率を誇っています。目下、新たなる入院患者嚥下モニタリングシステムの稼働を準備しており、入院患者さんの「安心と安全」を高めてまいります。

退院したあとは、それで終了ではありません。食形態や姿勢、手技や装置などの支援が必要な、乳幼児や小児、神経筋疾患や脳血管障害、高齢者の患者さんの退院後は、山崎香代摂食嚥下障害看護認定看護師による、口腔外科外来が後援する「摂食嚥下支援看護外来(退院後)」がサポートします。入院経験がない患者さんでも、当院かかりつけの外来患者さんのために、耳鼻咽喉科外来が後援する「摂食嚥下支援看護外来(外来)」がサポートします。いずれの看護外来も、必要に応じて医師による嚥下内視鏡評価や専門的ケアによりバックアップできるシステムとなっています。外来診療科としての窓口は持っておりませんが、かかりつけ医からのご依頼で支援させていただく場合がございます。

このように、外来から入院、退院後までシームレス(切れ目のない)な摂食嚥下支援で、患者さんの「口から食べる」を応援しています。

摂食嚥下支援看護外来(当院退院後：口腔外科外来) 毎月 第2・4金曜午後

摂食嚥下支援看護外来(当院かかりつけ：看護外来) 毎月 第4土曜午前

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30～17:00、土曜 8:30～14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院

Toho University Omori Medical Center

〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1

03-3762-4151 (代表)

<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>

発行元：地域医療支援センター